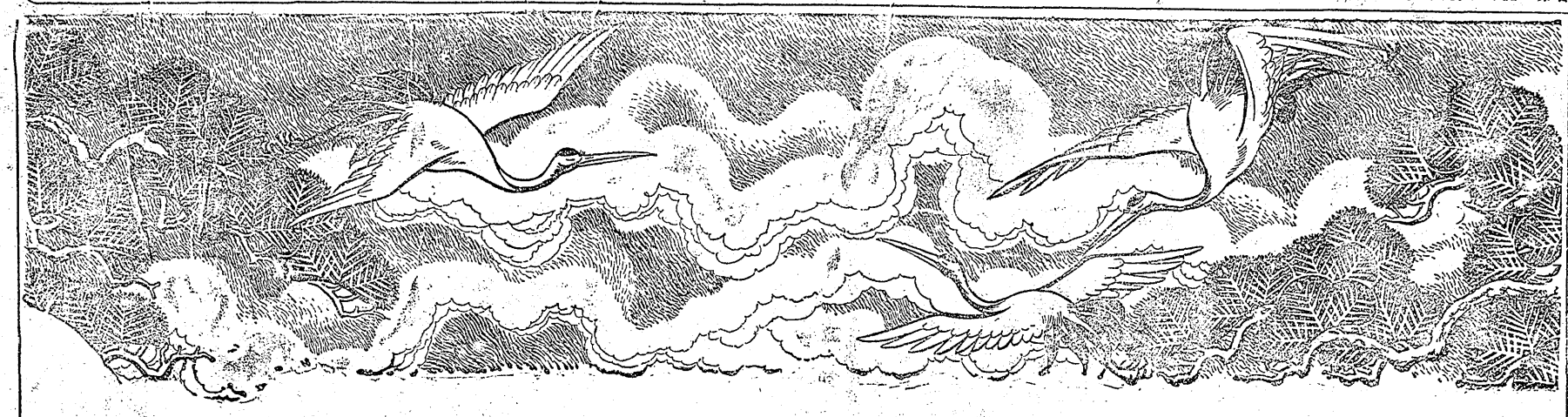


一日一發行

廣告料金（特殊欄）一段十二行金九拾錢（普通欄）一行一段金六拾錢（連續）一回金五拾錢
定價（郵送料共）一ヶ月金六拾五錢

（日曜祭日翌日休刊）
東京振替口座一〇八〇五六五番

編輯兼發行人　田邊太一
印刷者兼發行人　柏木哲夫
福島縣石城郡平町六番地
發行所　磐城新聞社
登録番号（平局第五四八五号）

謹奉賀戰捷昭和第十三年

昭和十三年は來た。

世界戰史上に不朽の一頁を加へ建國三千年來の炳乎日星の如き光輝ある歴史に陸離たる光彩を放つた第一次の新春を迎へ、宛然藥水を以て眼を拭つた如き爽快さを以て、東洋平和永遠の確立を示す世にも若々しい亞細亞の姿を凝視する時、誰か生來年々歳々味ひ來つた年頭感以外更に一種鮮新の感慨無きものぞ、茲に金甌無缺の國体と聖壽の無窮を謳歌しその海山の如き惠澤に浴する一億同胞の恩寵を思ふ時、力强き『萬歳』『彌榮』は期せずして蒼生萬民の口唇より迸り出づるのである。

市制最初の春を迎へた平市の春は之亦今迄になく快朗そのものである即ち之を當面の施設計劃に徵せんか漫ろに明日の發展を示唆する宏壯開濶な市の南郊には昨春當局の英斷を以て埋立に着工した第五小學校と之亦既に選定を了した商業學校との敷地が近き將來に於ける學校網の完成を約束してゐるのをはじめ、新興躍進の都市として必須の施設たる公會堂は目下着々進工して極めて近代的の仕樣設計に基くその偉容は將に少くとも市の一新風景をなさんとしつつあるなど市形態の整備は昨今定に輕快なステップを踏みつつある。更に昨秋十月六日の市會に於て滿場一致の議決を經、尚ほ客臘の通常縣會に於ても同樣の措置に出られた縣案の平小鐵道建設工事促進に就ては一層の熱意を以て不斷の努力が續けらるる事であり市の明日は蓋し何れの角度より觀るも頗る多彩と云ふ事が出來る。斯くして天の時、地の利を而も豊滿に享受する平市は此上たゞ人の和を必要とするのみである、乃ち相戒めて蝸牛角上の相剋反噬を避け苑として春の如き一大圓欒の天地たらしめねばならない。

茲に更年の劈頭に當り上聖天子の萬歳と下萬民のより多幸多福ならん事を千祈萬禱して已まぬ。

昭和十三年一月元旦

磐城新聞社

新年雜詠

尊風庵

（出征兵を憶ふうた）

○明日知らぬ命おもはで給びし御酒に醉うて語らん故郷の春
○湯にや入りし髮もや刈りし軍服は血によごれこすせめ春と思はん
○初春を酒の香も嗅かずかちむ手に銃を構へんこゝだ出征兵
○南京に春を迎ふる勇士らが擧げなん凱歌や東亞の鎭め
○二千六百年間はしめてを敵の首都に據り初日迎へん

神苑歌

永戸　荻野　久良

○森ふかく神のよもしひほの見わたて八平手高き朝ほらけかな
○廣前に一番乘りは武士の妻、薄着にはだし雪深き朝
○神苑に慶色あふる朝ぼらけ、たゝかひ勝ちて日の丸の春
○廣前にまうて心も霜れにけり、朝風りぎて旭かゞやく
○鈴の音も鳴り切れそふな朝參り、支那の聖戰をしつめ給ひと

諸橋　嘉一

○來ん年も無事に過ぎなんきみが身の、多幸祈りぬ　けふの佳き日に
○年毎に希み新たに年迎ふ、迎ふる年のまたや來つらん
○初詣でなにか心のしまり來て、年立つ朝のすがゝしけれ

由良預之助

○戰捷の新春や來にけん高らかに年立つけさの萬歳の聲（奉祝式）
○萬歳の聲よとゞろけこのあした大日章旗はひるがへるなり（同）
○街を行く蜜柑荷馬車の男みけり初荷に高し　日の丸の旗

寅歳に因める歌

○千里往きまた還るとふ寅ことし出でて戰ふ人に幸あれ
○スマトラの虎の鹽肉食しゝ春は十二年過ぎぬわが腕ほそりぬ
○寅歳にあれし吾れなり此歳をひた分け入らん歌の林に

狂ひ凧

野本多霞夫

○燦炭のほのほの匂ひつんとくる朝より窓の凧狂ひつつ
○枇杷暗く軒端の霜に咲きて居り鹽をきかせて冬菜漬け込む
○あゝみどり芽をふき出して生きの緒に命するまじき軒のにんにく
○窓近く霰ばしる音の澄む夜なり寢くはころびを縫ふ
○カレンダー日にけにめくる習慣を子につけさせし心足らへる

新年雜吟

平華生

目に見ゆるもの初日影皆淨し
神域や雪に淨めて初日迎く
御社の神威儼たり雪淨し
大宮居綠の松に雪飾る
國運を壽ぐがごと初日の出
冷水を浴びたる氣分初日影
雪踏んで社の若水を汲みにけり
戰勝の春空高く大國旗
元旦や皇國に生れ難有し
豊年の兆や社頭に雪積る

○

戰捷の國旗は空に躍つてる
軍國ノ春や勳章ものを云ひ
昨日の鬼ゝ年賀ゝ惠比壽顏
初詣で願事ゝ神も耐喰ひ
お小言の親爺も今日は遠慮をし

獅子庵

○朝拜や皇統茲に三千年
○神州の誇りぞ不二の初姿
○初夢を獏ゝ喰はれて了ひけり
○初鶏や我健やかに丘に立つ
○四五枚の歌留多に迫る呼吸かな

銃後の春

石橋柴子

○聖戰の後の女なりぬ初詣
○女の腕の生活に耐えて年あらた
○大注連や女ながらも家護るべく
○屠蘇ささぐ征きしかの地の夫にて

淺春吟

○山里は春尙淺ゝ谿の音　一陽
○なにやかや庭に芽のふく春の雨　荒村
○鉢木瓜の花白々し春寒し　梓弓
○早梅に山風あらき日のつゞく　貞子
○鳥群るゝ樗の下や草萠ゆる　吉郎
○古椀の流れてありぬ雪解川　左馬
○岩はだに滲み出す水の温みけり　同

春寒

○そゝぐさと旅の仕度や春寒し
○春寒の淋しきを又悲しうす
○わが心うつろに春の寒さかな

山田三子

○枯枝の結ばれしまゝや菊芽生　貞子

勅題　神苑朝謹賦

琢雲　小野務平

老柏喬松曉氣蒼
觚稜高登數鵬翔
階前有婦牽鈴索
應聯征人武運長

磐城炭礦株式會社
所長　菅原萬治郎
副所長　濱崎善三郎

入山採炭株式會社
取締役所長　吉田宗雄
取締役副所長　大貫經次

古河礦業好間鑛業所
所長　下野一朗
係長　安孫子虎雄

不動澤炭礦
石城郡內郷村

福島炭礦株式會社
茨城縣多賀郡南中郷村
南中郷炭礦
礦主　尾藤憲祐

入山立國勞働自治會
會長　松繁庄一

杉山炭鑛
福島縣石城郡內郷村

川瀨幸治
福島縣石城郡赤井村

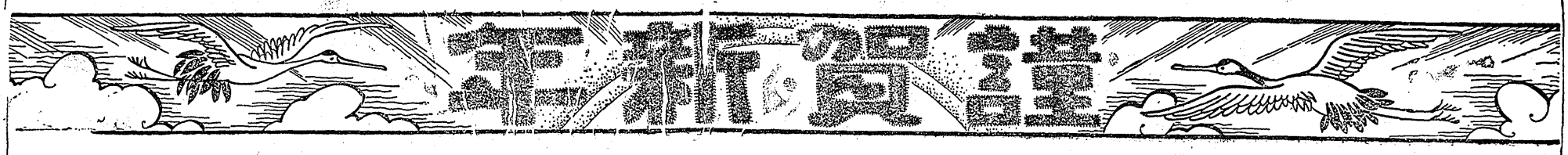
戸部炭礦
宮鑛業所
小野田鑛業所
戸部光衛

大倉無煙　芳の目炭礦
礦主　川波芳太郎
茨城縣多賀郡華川村

植田水力電氣株式會社
社長　金成通
福島縣平市（電話五一九番）

堀江工業株式會社
出張所　東京市麴町區大平市三ノ二
日清生命ビル三二九
電話丸の内一、八九三番
八戸市湊町（電話四〇六番）
專務取締役　鈴木唯治
取締役兼工務部長　堀江新太郎
支配人　長谷川常吉

內郷村白水
白水炭礦會



新年奉祝の辭

平市長 青沼鋒太郎

皇紀二千五百九十八年の新春を迎へ旭旗萬戸に翻り瑞雲天に張る 聖代に生を享け、茲に恭しく聖壽の無窮と國運の隆昌を願へ平市民各位と共に祝賀の式を行ふは不肖の最も欣幸とするところであります

伏して惟みるに萬世一系叡聖文武 今上天皇陛下には御乾德愈高く 皇后陛下には倍々御仁慈洽く御坤德淑かに 皇太子殿下を初め奉り各宮殿下御健かに拜し奉り寶祚の彌榮と天壤と與に窮りなき 皇室の御繁榮を壽き奉りますことは誠に慶祝に堪へざる次第であります

抑々人道を尊重し正義を擁護し人類の平和と國際親善とに寄與するは大和民族の使命であると同時に我建國の大精神でありまして今や滿洲國は日滿不可分の關係を持續して鞏固なる獨立國家として益々健全なる發展を見るに至りましたが暴戾なる彼の匪賊は未だ全く絶滅せず蘇滿國境の防備は寸時も忽諸に付すべからざる情勢に置かれてあるのであります。加之七月七日勃發したる支那事變は帝國不動の國策たる東洋長久平和の上に一抹の暗影を投するに至りまして我帝國は斷然起つて破邪顯正の劍を執り征戰茲に五ヶ月餘或は北支に或は江南の地に勇戰又轉戰朝に一城を陷れ夕に一壘を拔き皇軍の征く所空に、陸に、將た海に連戰連捷、河北山西の雄嶮、上海江南の堅壘相踵いで陷落し終に舊臘十三日難攻不落を誇る抗日の首都南京を陷し武勳赫々輝しき戰果を收めました事は元より 天皇陛下の御威德の然らしむる事は曰すも畏き極みでありますが我忠勇無双の出征將士が烈々たる盡忠報國の赤誠に燃ゆる奮鬪努力の結果でありまして吾々國民の感謝感激措く克はざる所でありますと同時に白衣の將兵、護國の

北支には中華民國臨時政府が樹立されて其の陣容を整へ上海にも大道自治政府が成立し北支の各自治機構が北京の臨時政府を樞軸として之れに融合したるが如くも整備いたし着々市の發展を期しつゝありますが市は數指を屈するに至ります力し今後の事態が如何に展ずるとも自治委員會の組織を見るに至りまして今次の支那事變の武力戰に於ける前途は南京陷落を一段階として稍々の武力戰に於ける東亞を繞る國際情勢は經濟戰に、思想戰に極めて微妙複雜であります。而して帝國は愈に決心を以て 皇國聖戰の大京陷落を一段階として稍々ものがあるのであります。

希くは市民各位一層の御援助あらんことを切望する次第であります。

舊平町の懸案たりし公會堂の建築も着工中でありますが、地方としては相當の建物でありますから監督を嚴正にし細心愼重の注意を以て施行せんとする事業の概要を擧くれば都市計劃の實現、下水道の完成、市區改正の改築、社會事業の施設經營等市としての設備は之れを算へ來れば數指を屈するに至ります。又今後に於て施行せんとする事業の概要を擧くれば都市計劃の實現、下水道の完成、市區改正の改築、社會事業の施設經營等市としての設備は之れを算へ來れば數指を屈するに至ります。

希くは將來市民各位の深甚なる援助に信賴いたし戮力一致共存共榮平和圓滿裡に明朗なる平市の建設に邁進いたし以て福利の增進に努め市民生活の向上發展を期すると共に市民の一致共協定成立いたしまして共産主義の排擊强化に進んで居ります。最近新聞の報する所に依れば彼のスペインの內亂も動亂勃發以來既に一年有半を經過しフランコ將軍の國民政權はスペイン國土の三分の二を支配するに至り日、獨、伊三國防共協定が動機となり日本のフランコ政權承認となり更に滿洲國、續いてポーランド其他の國に於ても承認することゝなつて共産黨の壞滅遠からざるを想はしむるものがあります。

而かも支那の現狀は多年の內亂も動亂勃發以來既に一年有半を經過しフランコ將軍の國民政權はスペイン國土の三分の二を支配するに至り日、獨、伊三國防共協定が動機となり日本のフランコ政權承認となり更に滿洲國、續いてポーランド其他の國に於ても承認することゝなつて共産黨の壞滅遠からざるを想はしむるものがあります。

而かも支那の現狀は多年の內亂も動亂勃發以來既に一年有半を經過しフランコ將軍の國民政權はスペイン國土の三分の二を支配するに至り日、獨、伊三國防共協定が動機となり日本のフランコ政權承認となり更に滿洲國、續いてポーランド其他の國に於ても承認することゝなつて共産黨の壞滅遠からざるを想はしむるものがあります。

石政權及國民黨の頽落と共に北支にも中支にも民衆自身のための新支那誕生の黎明が訪れて居ります。既に十二月內務大臣は六月一日實現を期せむとして居ります。

時局萬才

○日本男兒 △大和撫子

○『撫子さん、明けましておめでたう』

△『あら、男兒さん、おめでたうございます』

○『ウヘッ！たまらねえなあら！ときやがらア。——男兒サーン、と來やがらアまショ。——』

○『そんなことは、撫子さん。あんたは、聞かんでも判つとる……』

△『それなら、そんな甘つたるい聲を出すのはおよしなさいざアます』

○『ウフッ！およしなさいざアます……はをかしいな』

△『笑ひごとではござアませんよ。さうして、笑つたりするところを見ると、あんたは、何故、非常時といふか、知らないざアますね』

○『知つとるよ』

△『では、何故ざアますかいつてごらんなさい』

○『それは、つまりわが國は、暴戾支那と戰つてゐるからです』

○『では、なぜ暴戾支那と戰つてゐるのざアますか』

○『それは、つまり、支那が惡いからだ』

△『惡いからにきまつてをるのますが、ただ惡いではわからない。なぜ惡いのかといふこと知らないのざアませう、……根本は、赤化し羽織を着た子供がそこへやつて來たのをみて

○『あッ、撫子さん！大變だ、あの子を救つてやらなくちゃア』

△『なぜざアます』

○『なぜつて、あの子は、赤いチャンチャンコ（袖なし羽織）を着てるでせう。赤いチャン〳〵（支那）は助けてやらなくちゃア……』

△『なるほどねえ。……撫子さんは、博學だ。つまり赤い支那を救ふ爲なんですねえ。』

△『さうざアますよ。』

といつたとき、赤い袖なし羽織を着た子供がそこへやつて來たのをみて

○『あッ、撫子さん！大變だ、あの子を救つてやらなくちゃア』

△『なぜざアます。』

○『なぜつて、あの子は、赤いチャンチャンコ（袖なし羽織）を着てるでせう。赤いチャン〳〵（支那）は助けてやらなくちゃア……』

新年詠

島田忠夫

○皇軍はすでに飽くまで戰ひて雪積む陣に年むかへけむ

○たたかひの激しかりしまま語りあひ淚うかべて年むかふらし

○大君のすすむる兵が雪の中に手づくりの餅くひて祝ぐらむ

○みちのくに共に寄ちし幼なごち舊戰すとふ便りきくは雄々しけれ

○ある友の戰地よ寄せし短かかる便りは去年の暮に書きしか

顧て本市の過去を顧みまするとき劃期的の事業ともする豫定であります。

其他商業學校の改築、第四小學校の增築、第五小學校の新築、平窪方面に於ける道路改良の計劃、農工商の積極的指導奬勵等着々實現を期せむとして居ります。

賀狀特別取扱ひ 實に八割方の減

峠は最終の廿九日

平局の年賀郵便は例年の如く舊臘二十九日でそこに達しなかつた、尙取扱ひの特別取扱ひがの峠は最終日の二十九日なのでそこに達しなかつた、尙取扱ひの峠は最終日の二十九日なので係員も『戰爭はこれか非常時閣議の餘らですョ』と雪崩れ込む賀狀洪水最後の消化に汗だくだつた（括弧內昨年）

△引受△九一、三〇二通（四一三、六〇九通七割七分減）

△中繼一四七、九三六通（七〇三、九二九通七割九分減）

△到着四三、三四五通（二三六、三四〇通八割一分減）

平局に閑古鳥

平局の年賀郵便は例年の如く舊臘二十九日でそこに達しなかつた、尙取扱ひの特別取扱ひがの峠は最終日の二十九日なので係員も『戰爭はこれか非常時閣議の餘らですョ』と雪崩れ込む賀狀洪水最後の消化に汗だくだつた（括弧內昨年）

△引受△九一、三〇二通（四一三、六〇九通七割七分減）

△中繼一四七、九三六通（七〇三、九二九通七割九分減）

△到着四三、三四五通（二三六、三四〇通八割一分減）

けふ 新春戰捷祝賀の會

晴れやかに明けた戰捷の春々のうちに會を閉づる筈を壽ぐ平市民の新年奉祝式は今元旦午前十時から約千名近く出席の下、第一小學校講堂に愚行

國歌合唱、御眞影奉拜、奉祝年頭の辭（青沼市長）に次いで高らかに萬歲を奉唱、引續き同講堂で『戰捷祝賀會』を開いて戰線の空にも響けよとばかりに『一千人の皇軍萬歲』を三唱簡素な祝宴を張つて和氣藹

勤續警官表彰

郡下で四氏

警察官拜命以來三年以上の勤續で左記四氏は君島知事から精勤證書を授與された

（平署）巡査佐々木太藏

同佐藤今朝雄

（植田）巡査柴田義一 我妻鳩夫

勇み肌の出初め式

六日晴れやかに

勇み肌の江戸情緒をしのばせる平消防組の恒例出初式は今年も來る六日晴れやかに擧行され、當日午前六時勢揃ひした組員はこれを數班に分け掛聲勇ましく市內を梯子登りで繰り歩き、終つて例年の如く聚樂館で簡素な祝宴を張つた上勤續組員の表彰式を擧行する筈である

平署に新巡査。增員巡査第二期終了によつて平署へ新に藤田新吉、新谷至誠の兩氏が配置された

お正月知識 蜜柑の話

たゞ餅と蜜柑これはお正月の食べものゝ兩大關ですね一體蜜柑はいつ頃日本に來たかと言へば紀元七三〇年（凡そ今から三六〇年前紀州へ渡つて、本場と言はれるやうになつたのです

蜜柑は酸を含んでゐるので、よく消化を助け、殊にお餅を頂いた後にいゝのです。又ビタミンCといふ人體にとつて迚も大切な榮養素を含んでゐます

蜜柑の善惡を見分けるには、艶々として色がよく、張り切つた感じのするものが良く、皮が凹凸したり、いぼの出來てゐるのは旨しくありません。又輕いのより重いのがいゝのです

▲一白 清新の英氣を發ひ事に當れ福德自ら來る▲二黑 心を靜めて一家安泰を圖り神參りによろし▲三碧 心怡しき事あるも寬容の態度に變化する運▲四綠 新春平安の運氣山氣を出さず靈實第一が吉▲五黃 身分相應何事も前後を考へて手順よくせよ▲六白 心素直には立てず一家の和合を圖るが安全▲七赤 正直の頭にかみ宿る百行一致に運を開くべし▲八白 先づ他かう心身の健全を圖りて餘益を考へよ▲九紫 喜びにあふれ盛運日一年の大計を樹つべし

裁判定應寺
東京市本郷區湯島四丁目
高島易斷總本部 神誠館

日	十	三	一	十	土	曜	新
柳	執	佛	滅	癸	巳	一	月
宿						日	一

平市土木建築請負組合

（いろは順）

色川一 織田萬次郎 岡田政次郎 渡邊長作 丹野幹之丞 田中宣治 高橋利太郎 只野忠康 堀江工業株式會社 丸山喜一郎 前澤文太郎 丸山德次郎 赤塚兼助 荒川銀治 佐藤福太郎 佐々木健一郎 佐々木喜平 菊田萬吉 强口唯七郎 吉田庄三郎

カロリー會（イロハ順）

星恒明 電話四七一番

大和田郡司 電話一七〇番

大河內一郎 電話五八八番

金成忠義 電話三五八番

吉田久雄 電話六八番

根本莊次郎 電話三四番

松村鐵郎 電話一〇七番

藤沼平次郎 電話五〇七番

酒井國三郎 電話五五番

白土德彌 電話二七九番

志賀正光 電話一六二番

鈴木亮 電話四三八番

高久村役場 村長鈴木喜太郎 助役本馬武 收入役鈴木正一 書記藥谷明 猪狩梅吉 猪狩久男

平市 菅本庄治

下小川村役場

片倉磐城製糸株式會社 福島縣平市三倉八

平藝妓屋組合

松本德一 平窪村

宮城銀行 專務取締役 山田勇太郎 仙台市元寺小路

石城郡銀行組合

釜屋商店 諸橋久太郎 諸橋元三郎

內鄕村白水（銀驛） 神奈川炭礦 栃窪礦業所 矢鄕倉藏

平看護婦會 清野キヨ

內鄕村長 沼田濱之助

內鄕村會議員 小松定次郎

平市明町 耳鼻咽喉科醫院 鈴木正男

內鄕村大字宮字金坂 鈴木齒科醫院 鈴木喜政

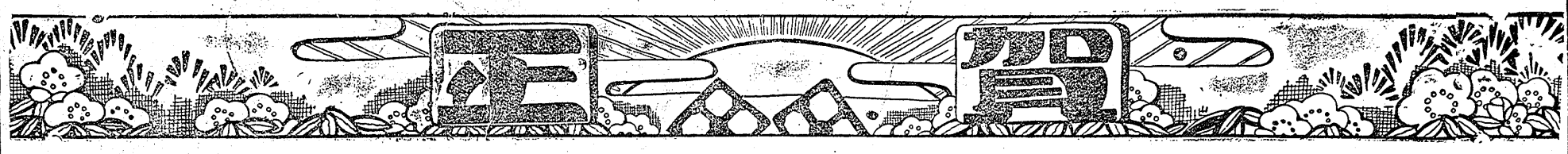
植田町長 古川傳一

磐城建物株式會社 取締役支配人 井上貞治郎

縣會議員 小名濱町長 小野晋平

石城郡町村長會

平市長 青沼鋒太郎



鯉料理の卷

しくじり

平嵐旅之

數年前の正月の或日のことである。私の病院の近くにその次男息子が住んでゐて懇意にしてゐる關係から以前にも二三回の面識もあつた六十がらみの農家の老主人、生來幾分蒲柳の質であつたそうだが正月の酒の飲み過ぎから健康を頓に損じて私の診た當時には右の肺炎加答兒に氣管支炎を併發し血痰さへも見たとのことで大いに心配して來たのであつたが幸ひにも安靜禁酒攝生のお蔭で非常に順調に輕過して僅かの治療で治癒の狀態になつたので患者の喜びは譬へやうもなく心から私に感謝して呉れた。

その感謝の表現として私を自宅に招待して呉れて鯉料理を御馳走して呉れるといふことになつて私と妻とはその農家の賓客となつたのであつた。老患者の伜が目聡な鯉をとつてきたことの自慢も一つは手傳つて主人仲々の御機嫌である。曰く『先生は手術も大變お上手とのことだがその腕前から鯉の解剖も定めしお上手のことでせうから一つ料理して頂きたいこれも一つのお慰みとならうから』とのことで準備萬端整へて磨ぎ澄ました庖刀を私にもたせて自分は立つて傍觀してゐた私も少年時代を田舍に育つたとはいへ魚屋でも百姓でもない、研究生活時代には大分犬や兎の解剖には親しんだが鯉の料理は始めてである、だが出來ないと斷るも癪だと思つて勇氣を鼓して庖刀をとつた。仲々手際よくやつてのけてゐたがそのうちフト膽嚢に刄先がさわつて濃綠色の膽汁がサッと流れ出た、その途端老主人の顏がスーッと蒼白になつて『これはしくじりだ、ふ思惑の色が眼　浮んだ』を見逃せなかつた。といふのは鯉料理で膽汁を流れ出させたが最後その身はにがくなつてどんな立派な魚でもスッカリ駄目になつてしまふことに決まつてゐたと老婦の手料理になる珍らしい田舍料理と共に所謂先生自慢の鯉の洗ひで夜の更くるも忘れて歡談した。

それから一年二年三年と經つたが共に飲むたびに醉つても高が鯉のことゝは度胸のきめ所とワザと落着き拂つて『僕の料理法から出る、膽嚢を切られて冷汗いふと膽汁が着くなどは問題ではないマア一つ出來あがつた上味はつてもらひたいい』と大きく出ておき『洗ひに作り上げて早速井戸端に出てゆき清冽膚を刺す井戸水で妻を相手に洗ひ流したり賞められたりするたびに腋下三寸汗のにじみ出るを覺ゆるのである。

私の必配も亦名狀すべからずであつたがそこは何といふ程にこの鯉料理の一件が出る、膽嚢を切られて冷汗をかいたこと、しかし出來上つた洗ひが天下一品うまかつたことなどひやかされて腋下三寸汗のにじみ出るを覺ゆるのである。

エネルギッシュに繰り返してゐると肉はピンとそり返りつてゆく人情のくやしさ—苦味は完全に洗ひ流されていとも立派な『鯉の洗ひ』が出來上つた、さつきの不安も一掃されてホッと安堵の思ひがした。それから主熟をかんずるのである。

丹羽文雄の描くをんなもほとんど私は蒐めてゐるがまだ、これといつた女に逢はない。『この絆』の那木子のやうな傀儡みたいのは私の大嫌ひな型である。『雪國』の田舍藝者ではあるが、駒子のやうな新らしいかゞやきをもつた女は、丹羽のをんな物でも、まだまだ一寸描けないだらう。

そこへいくと、林のお芙美さんであるが、感情一ぱい、ぶつつけ作ら描いてゐるのをみると、どぎんどきんと胸が衝かれるやうで、やるせなくなる。この人のものは『放浪記』からずと近刊の『花の位置』まで欠かさず讀んでゐるが、女の心理なんて、まつたく複雜なものだとつくづく感ふともすると、このごろはおこたりがちになつて、本を讀む時間のない日が多い永井荷風の『墨東綺譚』などは、はづかしながら新聞で散見しただけで未だ讀んでゐないのである。それも『墨東綺譚』といふ字がし風のものではなくなつて『つゆのあとさき』や『ひかげの花』などよりも、と駄菓子の味を思ひ出しながら刺らなくなつてしまつたやうである。

豆のまじつたねぢりんばう、赤い色のついたかりんとう、いろんな動物に形どつたきんかとう、粟おこし神苑の芝くれなゐに雪敷ける元日の不二圖原を鎭め立つ黍たこし——といつたものゝ一つであつた。

かりんとうやおこしの類は、いまも松月堂かたしでも買へるだらうが、むかしの駄菓子の風味からみると、はるかに遠いものである。

私が子供のころは、駄菓子といふものがあつて、子へのほのかなノスタルジイが感じられて、うれしいものゝ一つであつた。

それにしても、このごろの子供たちは、モリナガやメイジのものでないと、よろこんで手を出さなくなつた。一錢菓子といふのはあるけれども、まつたくむかしの風のものではなくなつて『つゆのあとさき』や『ひかげの花』などよりも、とつまんでみても、その淡りつきにくいやうな感がするから——といふ理由もあるのである。

このお正月休みには、家居して讀書三昧に日を過したいと思つてゐる。

○

私もこれでまた一つ馬齢を加へることになつた。まもなく三十に手がとゞくのである。

方丈記に、——世にしたがへば身くるし、したがはねば、狂せるに似たり』なんて言うてからに、鴨長明は甘んじて世に順應することを、何故しなかつたのであらうか。理想家氣質の自我を捨てえない一生なんて私などのなかなかゆるされないところである。

堯儒焚書は支那の古譚である。私たちは、自由な讀書人として新春を迎へたい市によく景品にくれる黑砂糖の味は、私たちの子供のころの愉しい食べものゝ一つであつた。

『ねぢりんばう食ひたい、ねぢりんばう食ひたい』と喉をならすことがある。

○

川端康成の『雪國』が、私の好んで讀んだものである。この中の駒子といふ女に、私は、なんとなく心魅かれてならない。

いけない、いけないと思と切願してゐた。

元日試筆

白水夢尾

私が子供のころは、駄菓子といふものがあつて、ようく買つてきて食べた。

黑砂糖や白砂糖でいろいろの形に練りかためたもので、なかなか風味があつて、まうまかつたが、今では、駄菓子の味を思ひ出しながら散見しただけで未だ讀んでゐないのである。それも『墨東綺譚』といふ字がし風のものではなくなつて『つゆのあとさき』や『ひかげの花』などよりも、と

戰捷の春

渡邊何鳴

みいくさは捷てり新春をいま迎ふ
元日の嶺々しづけくも雲まとふ
元朝の榊きよらに雪かつぐ
元日や常のごとくに爐の焚火
神苑の芝くれなゐに雪敷ける
元日の不二圖原を鎭め立つ

刻昆布製造 本多辰吉
銘酒 小錦 高久村醸造元 鈴木喜太郎
四倉町新町販賣店 松本屋酒店
四倉町 金生丸 鈴木米吉
古銅鐵問屋 伊本商店 四倉町新町
四倉町會議員 菅波末吉
四倉町會議員 大須賀丑藏
四倉町會議員 佐藤廣治
町會議員 金成岩吉 四倉消防組頭
四倉港修築事務所 所長 關根高次
四倉合同貨物自動車商會
四倉町會議員 長谷川長太郎
四倉町會議員 鈴木幸次郎
四倉町會議員 植田万治郎
菅波康太郎 四倉町
大日本電力株式會社 四倉變電所
國倉新町二四番地 鱗屋合名會社 電話一〇八番
處方調劑 深谷藥局 四倉新町電話二八
上野驛前旅館 大幸館 東京市下谷區仲御徒町四 電話下谷六七七番
川村源市 東京市麻布區櫻田町七拾壹番地 電話赤坂(48)四七〇〇番
貴族院議員 金成通
鈴木辰三郎
野麥社
同人一同
阿部政右衛門
石城郡内各學校長會
木村清治
矢吹豐 石城郡夏井村
温泉旅館 山形屋 鈴木庶平 電話四番
湯本信用無盡株式會社
磐城水産工業株式會社 小野晋平 福尾伊太郎
福好工業合資會社 强口唯七郎 電話二八二番
福島縣會議員 平市會議長 野崎滿藏
湯本町 比佐榮一
フヤルマ 山崎合名會社 電話本店二七番 營業部一〇番
平庶民金庫
豐間大敷事務所
豐間村役場
豐田鐵工場 四倉町
賀澤寅五郎 四倉町
四倉新町 豐田盛次
吉田彌十郎 四倉町
四倉町 田村屋タクシー 電一三一番
吉田保之助 四倉町
西山新重郎 四倉町
大野村玉山 石屋旅館
福島縣四倉町 面川龜之助 電話十一番
四倉町雞鳴會長 青木公丸
額賀醫院 四倉町
吉田醫院 四倉町
友部株式店 梶山璋 平市三
高久病院長 高久忠
保證責任江名信用販賣購買利用組合
赤堀信平 東京市瀧野川西大原六九二 電話王子一三六三番
江名町役場
高橋龜松 平市白銀町 電話六三八番
四倉町藝妓屋組合
鐵道省指定旅館 海氣館 四倉町 豊田美孝
四倉町 門馬醫院 院長 門馬倉次郎
磐城セメント四倉鑛業所
四倉町長 新妻盛
佐藤仲 四倉町
四倉小學校職員一同
四倉町水道部 渡邊外二
福島縣石城郡四倉町新町四〇番 保證責任 四倉信用販賣購買利用組合 電話四倉一三六番 振替口座仙台八七二八番
四倉齒科醫師會
江口清 四倉町
御料理 石川亭 平市田町 電話四四番
建築請負業 小野榮明 好間村
石城郡赤井驛前 佐藤製材工場事務所 佐藤三平 電話三九七番
平電力株式會社

謹賀新年

平市鍛冶町
郡山無盡株式會社
平出張所

濱三郡凍氷
仲買人組合

平市四丁目
株式會社 **百澤商店**
電話(平)十二番

平砂糖商組合

井坂産婦人科醫院
電話五五九番

野村生命保險株式會社
平出張所
所長 福島健之
長橋町四七

研町
吉村安次郎

マルトモ書店
電話二三四番
マルトモ運動具店
電話一二四番
マルトモ食堂
電話一二三番

平市六丁目
木村外科醫院
木村淳

佐川洋服店
電話四一八番

平市二丁目
西村屋藥局
電話三番

平局長 牛崎久吉

平市
吉伴製作所
電話二二五番

丸三株式店
常盤光威
電話四六番

丸まげ 高島田 専門
吉田美容院

平市四丁目
關内藥局
電話四〇番

平市大町
難波醫院

福島縣平市二丁目
處方調劑 一般藥品 醫療器械
藥劑師 堀功
堀藥局
電話三二六番

平市一丁目
おでん一平
電話二六三番

平市田町大通り
高橋活版所
高橋勝吉

平市三丁目
大黒屋洋品店
電話長一一六

平市搦槌小路
武藏鐵工所
遠山稻吉

平市田町
御料理 蒲燒 仕出
魚榮
電話四二四

平市二丁目
御料理 天婦羅
越乃家

平市寫眞師會

增田耳鼻咽喉科醫院
平市南町 電話四八二番

平運輸株式會社

電氣、鑛山、土木用材諸機械
田邊商店
平驛前通り 電話二九四番
諸機械製作 田邊商店製作部

御料理
一良久
平市田町五 電話三九九番

合資會社 **平電氣鑄鋼所**

合資會社平製作所
西山惠一
平市

鐵材 工具 金物
山田文一
平市 電話二六二番

石城郡内郷村境
麻袋問屋 **山田麻袋商店**
電話一九二番

大日本電力平營業所

好間村會議員 役場吏員一同

平方部靴同業組合事務所
平市田町六八 電話七十七番

好間村
木田彌作

大床
平市田町
石崎幸一
石崎茂一

平市 九玉合名會社
馬目玉彌
電話四五三番

平市會新興會員一同

小田吉次

吉田四郎
東京市杉並區善福寺町四八
電話 荻窪 三五九六番

日立電力株式會社
丹野英治

平市役所
助役 伊藤秀吉
收入役 財務課長 西野源次郎
庶務課長 工務課長 酒井寅之助
兵事課長 産業課長 草野常彌
社會課長職業紹介所長 四家粂治

磐東銀行 **金成金三**
植田町

山口縣小野田町
大濱炭鑛
所長 島山藏六
技術部長 芦川正信
事務部長 高田彦次郎
顧問 大貫經次

日本曹達株式會社
小田鑛業所
所長 三谷省吾

石城海岸軌道株式會社

成瀨組
成瀨巴三

小名濱水産株式會社

湯本溫泉旅館組合

常磐線四倉驛前
四倉合同運送株式會社
電話四二番

平驛前
酒井伴城商店
電話六六一番

平西洋料理業組合

天從堂 表具師
前田力
福島縣平市大町二三

福島縣平市紺屋町
天井板、床柱 建築用材
織田材木店
電話四六〇番

國民精神總動員の趣旨を体して年賀省略仕り候
磐城無盡會社

葬儀一切 式物 名旗
博盛堂
松本幸松
平市搦槌小路一
電話(呼)五三五番

平市田町
大貞
電話四一三番

平市四丁目
丸市屋號
志賀盛榮商店

平市公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四番

二葉印刷所
熊謙次郎
平仲町電話一九三番

平市ネヅミ坂
渡邊小兒科醫院
渡邊久
電話一六一番

グリルバツカス
平市田町

平市一丁目
大平屋藥店

平市搦槌小路
大角園

平市三丁目警察署通
理髮 **東京**

四倉町本町
西山眼科醫院

平驛女學校
本田忠綱
酒井眞次
渡邊正彦
折笠吉太郎

平市田町
廣瀨支店
電話五四番

平市南町
鈴木染工場
電話四九二番

道路工事中に付南町成田山傍より御來觀下され度候
日活活動洋畫常設 **平館**

契約高八億達成
富國徵兵保險相互會社
磐城事務取扱所主任 米穀商 長瀨富彌
平事務取扱所主任 木幡林助
平市材木町電三三一
磐城地方團長 高橋元吉
平市的町五番地
平市紺屋町

大一屋商店
明治生命保險代理店
明治火災保險平南代理店
電話一三番

御料理 **八千代**
平市新田町電話三七五番

海軍工廠御用達
機械 銅鐵 KS
井尻七三郎商店
平市鍛冶町電話五二三

四倉町
中野正太

内郷村信用組合
理事 **山崎庫太郎**

平市三丁目三〇 星チェンストアー平支部
一般藥品 賣藥化粧品 醫療器械
木シ藥舗
電話四二九番
駒木根忠敬

平市
大谷時計店

好間小學校
校長 吉田庄太郎
外職員一同

好間軌道株式會社
取締役 支配人
山崎佐市郎

森合齒科醫院
植田町 森合芳男

前田醫院
植田町

山崎登

平料理屋組合
平市松ケ岡公園
割烹 とき わ
電話二二六番

大同生命保險株式會社
共同火災保險株式會社
平代理店
柏原幸次郎
平市二丁目

喪中年賀缺禮
植田郵便局長 馬上守一

平市四丁目
鶴屋商店
電話百四十番

石城郡内郷村小島
薄硝子製壜所
薄源次郎
電話平六九七番

低溫殺菌
岡田ミルクプラント
電話五一番

平市一丁目
蒲鉾製造
藤寅
電話一四一番

平市
富士食堂
電話六七七番

日本姓名學會
東北支部長
鵜沼孝昌

谷口樓
電話 八一五六番

二丁目
大村屋旅館

平市三丁目
家具漆器 簞笥雜貨
丸はん
電話二五九番

伊勢屋商店
阿部唯次郎
電話四十五番
振替東京一七九九番

平市田町
西洋料理 コンバル
高崎松三
電話六六六番

平市十五丁目
平病院
院長醫學士 鈴木定藏
電話六四一番

平市四丁目
富岡事務所

平市搦槌小路
海老原クリーニング店